

発寒ひかり  
保育園だより

2021年  
12月号

巻頭言

先日めろん室に入ると、「せんせい、しようどく！（紙コップ・ストローで作った『消毒ボトル』）」とO君（4歳児）、続いてF君・Aちゃん（5歳児）が「熱はかりまゝす（紙で作った『検温計』）」と自分たちで制作したものを持ってやって来ました。

ちようどその日は「パン屋さんをして招待しよう」と色画用紙などでパンを制作中。「お店だったら、消毒必要だよね」「そうだね！」と数人で盛り上がり、自分たちで考えてその場にあつた物を上手く利用し作り始めたそうです。出来た『消毒ボトル』と『検温計』はとっても特徴を捉えており、担任と「よく見ているね」「すごいね」と感心していました。

もし、「今日はパンをつくる予定だから、パンだけをつくろう」と声を掛けていたら、その後の子どもたちの姿はどうなっていたでしょう。もちろんパンをつくる活動は楽しいですが、体験する活動の広がりや主体的な遊びの深まり、また友だち同士との共同作業など違っていたことでしょう。

「いつもの一日」のように見えて、実は、全く同じ日はありません。子どもたち一人ひとりはその瞬間、色々な事を感じ、思いを巡らせています。子どもたちの気付きを大事にくみ取ったり、考えていることに寄り添ったり、あえて待ってみたり・・・時には保育士自身も迷ったり悩みながら、日々子どもたちに向き合っています。

自分が受け入れられている、自分の思いをわかってもらえたと考えるような関わりを大事にし、目には見えにくい心の育ちを保障する関わりを日々積み重ねていきたいと思えます。

園長 阿部 尚子